



平成31年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年8月7日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社 タカラトミー
コード番号 7867 URL www.takaratomy.co.jp
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小島 一洋
問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員連結管理本部長 (氏名) 沓澤 浩也 TEL 03-5654-1548
四半期報告書提出予定日 平成30年8月9日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無：無
四半期決算説明会開催の有無：有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第1四半期の連結業績（平成30年4月1日～平成30年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第1四半期	38,315	△0.4	1,671	△8.9	1,989	17.1	1,226	0.7
30年3月期第1四半期	38,487	13.9	1,835	—	1,699	—	1,218	—

(注) 包括利益 31年3月期第1四半期 3,445百万円 (186.2%) 30年3月期第1四半期 1,203百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第1四半期	12.96	12.91
30年3月期第1四半期	13.04	12.88

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
31年3月期第1四半期	142,951	59,650	41.4	621.17
30年3月期	139,456	56,322	40.0	591.00

(参考) 自己資本 31年3月期第1四半期 59,123百万円 30年3月期 55,757百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	7.00	—	7.00	14.00
31年3月期	—	—	—	—	—
31年3月期(予想)	—	7.00	—	7.00	14.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成31年3月期の連結業績予想（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	87,000	△1.1	5,500	△16.3	5,800	△9.7	3,800	△10.1	40.15
通期	172,000	△3.0	10,000	△24.2	9,500	△23.5	6,000	△24.6	63.40

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料11ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	31年3月期1Q	96,290,850株	30年3月期	96,290,850株
② 期末自己株式数	31年3月期1Q	1,110,569株	30年3月期	1,947,313株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	31年3月期1Q	94,637,476株	30年3月期1Q	93,461,957株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

今後の見通しにつきましては、5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	11
(セグメント情報)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(2019年3月期第1四半期連結累計期間におけるハイライト)

- ・売上高は、前期6月であった映画公開が今期12月になった「トランスフォーマー」映画関連商品の海外向け輸出が第2四半期以降にスライドするものの、国内における玩具販売や、「ベイブレードバースト」の海外向け輸出などが好調に推移したため、ほぼ横ばいの38,315百万円（前年同期比0.4%減）となりました。
- ・営業利益は、販売費及び一般管理費が増加したものの、売上高が堅調に推移したことに加え、プロダクトミックスの改善などにより売上総利益が伸長したため、第1四半期としては過去最高であった前期に迫る1,671百万円（前年同期比8.9%減）となりました。
- ・経常利益は、前年同期における為替差損が為替差益に転じたことにより、第1四半期としては過去最高の1,989百万円（前年同期比17.1%増）となりました。
- ・親会社株主に帰属する四半期純利益は、経常利益が増加したことにより、1,226百万円（前年同期比0.7%増）となりました。
- ・国内市場においては、定番である「リカちゃん」の関連商品が引き続き好評を博すとともに、「プラレール」ではテレビアニメ「新幹線変形ロボ シンカリオン」関連商品の販売が好調に推移いたしました。また、トレーディングカードゲーム「デュエル・マスターズ」は商品力を強化したことが奏功し、人気を集めました。
- ・TOMY Internationalグループにおいては、農耕車両玩具が好調に推移したものの、キャラクター関連玩具の販売が減少したことなどから、売上高が減少いたしました。

(経営成績の概況)

<セグメント別業績の概況>

(単位：百万円)

	2018年3月期 第1四半期	2019年3月期 第1四半期	増減	増減率(%)
売上高	38,487	38,315	△172	△0.4
日本	32,485	31,548	△937	△2.9
アメリカズ	4,841	3,897	△943	△19.5
欧州	1,193	1,070	△122	△10.3
オセアニア	463	397	△65	△14.2
アジア	13,582	12,772	△810	△6.0
消去又は全社	△14,079	△11,372	2,706	—
営業利益又は営業損失(△)	1,835	1,671	△163	△8.9
日本	2,102	2,693	590	28.1
アメリカズ	△12	△83	△70	—
欧州	△116	△294	△177	—
オセアニア	△5	△35	△29	—
アジア	222	136	△86	△38.7
消去又は全社	△353	△744	△391	—

<日本>

(単位：百万円)

	2018年3月期 第1四半期	2019年3月期 第1四半期	増減
売上高	32,485	31,548	△937
営業利益	2,102	2,693	590

日本では、定番商品において、2017年に50周年を迎えた「リカちゃん」の関連商品が引き続き好評を博すとともに、「プラレール」では1月より放送のテレビアニメ「新幹線変形ロボ シンカリオン」関連商品の販売が好調に推移いたしました。

また、トレーディングカードゲーム「デュエル・マスターズ」においては商品力を強化したことが奏功し、人気を集めました。さらには、次世代ベージュ「バイブレードバースト」の海外向け輸出が伸長しました。

新規商品においては、シリーズ累計4,400万個の出荷実績のあるリアルムービングキット「ゾイドワイルド」、フォトジェニックなサプライズドール「L.O.L. サプライズ！」がともに6月より出荷を開始しております。

㈱タカラトミーアーツにおいては、アミューズメントマシン「ポケモンガオーレ」が好評を博しました。

一方、前期6月であった映画公開が今期12月になったことによる「トランスフォーマー」映画関連商品などの海外向け輸出の減少により、売上高は31,548百万円（前年同期比2.9%減）となりました。営業利益は、販売費及び一般管理費が増加したものの、プロダクトミックスの改善などにより売上総利益が増えたため、2,693百万円（同28.1%増）と増加いたしました。

<アメリカズ>

(単位：百万円)

	2018年3月期 第1四半期	2019年3月期 第1四半期	増減
売上高	4,841	3,897	△943
営業損失(△)	△12	△83	△70

アメリカズでは、農耕車両玩具が好調に推移したものの、キャラクター玩具の販売が減少したことなどから、売上高は3,897百万円（前年同期比19.5%減）、営業損失は83百万円（前年同期営業損失12百万円）となりました。

<欧州>

(単位：百万円)

	2018年3月期 第1四半期	2019年3月期 第1四半期	増減
売上高	1,193	1,070	△122
営業損失(△)	△116	△294	△177

欧州においては、農耕車両玩具やベビー用品は好調に推移したものの、キャラクター玩具及びプリスクール関連商品の販売が減少したことなどから、売上高は1,070百万円（前年同期比10.3%減）となりました。また、一部商品の値引き販売による売上総利益の減少などにより営業損失は294百万円（前年同期営業損失116百万円）となりました。

<オセアニア>

(単位：百万円)

	2018年3月期 第1四半期	2019年3月期 第1四半期	増減
売上高	463	397	△65
営業損失(△)	△5	△35	△29

オセアニアにおいては、農耕車両玩具やベビー用品の販売が好調に推移したものの、キャラクター関連玩具の販売が減少したことから、売上高397百万円（前年同期比14.2%減）、営業損失35百万円（前年同期営業損失5百万円）となりました。

<アジア>

(単位：百万円)

	2018年3月期 第1四半期	2019年3月期 第1四半期	増減
売上高	13,582	12,772	△810
営業利益	222	136	△86

アジアにおいては、次世代ベゴマ「バイブレードバースト」が韓国、香港、台湾をはじめとしたアジア各地でテレビアニメ放送、店頭マーケティング、SNSやホームページなどのマーケティングを実施し、引き続き人気を集めました。また、アジア地域で広く展開しているトミカにおいては、販売が堅調に推移しております。一方で、生産子会社であるTOMY (Hong Kong) Ltd.における欧米向け出荷が減少したことなどにより、売上高は12,772百万円（前年同期比6.0%減）、営業利益は136百万円（同38.7%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

[資産、負債及び純資産の状況]

<資産>

流動資産は、前連結会計年度末に比較して3,034百万円増加し、91,064百万円となりました。これは主として、受取手形及び売掛金が減少した一方で、商品及び製品が増加したことによるものです。

固定資産は、前連結会計年度末に比較して464百万円増加し、51,876百万円となりました。これは主として、投資その他の資産が減少した一方で、無形固定資産が増加したことによるものです。

<負債>

流動負債は、前連結会計年度末に比較して784百万円増加し、54,122百万円となりました。これは主として、未払費用が減少した一方で、支払手形及び買掛金、リース債務が増加したことによるものです。

固定負債は、前連結会計年度末に比較して616百万円減少し、29,178百万円となりました。これは主として、長期借入金が増加したことによるものです。

<純資産>

純資産は、前連結会計年度末に比較して3,327百万円増加し、59,650百万円となりました。これは主として、利益剰余金、為替換算調整勘定が増加したことによるものです。

[キャッシュ・フローの状況]

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」)は、前連結会計年度末に比較して196百万円減少し、46,009百万円となりました。

<営業活動によるキャッシュ・フロー>

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,586百万円の収入(前年同四半期は2,821百万円の支出)となりました。これは主として、未払費用の減少2,476百万円、たな卸資産の増加2,250百万円、法人税等の支払額1,765百万円等があった一方で、仕入債務の増加2,766百万円、税金等調整前四半期純利益2,118百万円、減価償却費1,686百万円、売上債権の減少1,494百万円等があったことによるものです。

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

投資活動によるキャッシュ・フローは、1,243百万円の支出(前年同四半期は1,037百万円の支出)となりました。これは主として、有形固定資産の取得による支出995百万円、無形固定資産の取得による支出383百万円等があったことによるものです。

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

財務活動によるキャッシュ・フローは、766百万円の支出(前年同四半期は13,673百万円の支出)となりました。これは主として、自己株式の処分による収入526百万円、セール・アンド・リースバックによる収入500百万円等があった一方で、ファイナンス・リース債務の返済による支出782百万円、長期借入金の返済による支出765百万円等があったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向等を踏まえ、平成30年5月11日に公表いたしました平成31年3月期の第2四半期(累計)連結業績予想は、本日(平成30年8月7日)発表のとおり修正を行っております。なお、当該予想数値の修正に関する事項は、同日発表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	46,302	46,106
受取手形及び売掛金	23,582	22,231
商品及び製品	12,888	14,961
仕掛品	393	457
原材料及び貯蔵品	1,045	1,265
その他	4,037	6,250
貸倒引当金	△219	△209
流動資産合計	88,030	91,064
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	12,748	12,743
減価償却累計額	△7,919	△7,991
減損損失累計額	△408	△406
建物及び構築物(純額)	4,420	4,345
機械装置及び運搬具	2,513	2,537
減価償却累計額	△1,770	△1,803
減損損失累計額	△17	△17
機械装置及び運搬具(純額)	726	715
工具、器具及び備品	22,926	23,203
減価償却累計額	△20,727	△21,020
減損損失累計額	△589	△574
工具、器具及び備品(純額)	1,609	1,607
土地	3,991	3,994
リース資産	7,174	7,743
減価償却累計額	△3,313	△3,495
減損損失累計額	△0	△0
リース資産(純額)	3,860	4,247
建設仮勘定	661	378
有形固定資産合計	15,269	15,288
無形固定資産		
のれん	18,006	18,377
その他	10,663	10,881
無形固定資産合計	28,670	29,258
投資その他の資産		
投資有価証券	3,054	3,185
繰延税金資産	2,147	1,837
その他	2,738	2,766
貸倒引当金	△468	△459
投資その他の資産合計	7,472	7,328
固定資産合計	51,412	51,876
繰延資産		
社債発行費	13	10
繰延資産合計	13	10
資産合計	139,456	142,951

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,976	12,896
短期借入金	7,631	7,842
1年内償還予定の社債	10,000	10,000
1年内返済予定の長期借入金	3,062	3,062
リース債務	2,642	2,902
未払金	8,051	7,878
未払費用	8,220	5,786
未払法人税等	1,726	1,076
引当金	736	518
その他	1,288	2,158
流動負債合計	53,338	54,122
固定負債		
長期借入金	22,098	21,333
リース債務	1,217	1,453
繰延税金負債	1,078	1,114
再評価に係る繰延税金負債	472	472
引当金	497	503
退職給付に係る負債	2,693	2,644
その他	1,737	1,655
固定負債合計	29,795	29,178
負債合計	83,134	83,301
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,459	3,459
資本剰余金	9,095	9,135
利益剰余金	35,881	36,447
自己株式	△1,271	△724
株主資本合計	47,165	48,317
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,083	1,166
繰延ヘッジ損益	△140	442
土地再評価差額金	585	585
為替換算調整勘定	7,727	9,279
退職給付に係る調整累計額	△664	△668
その他の包括利益累計額合計	8,591	10,805
新株予約権	175	133
非支配株主持分	389	393
純資産合計	56,322	59,650
負債純資産合計	139,456	142,951

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
売上高	38,487	38,315
売上原価	23,116	22,765
売上総利益	15,371	15,550
販売費及び一般管理費	13,535	13,878
営業利益	1,835	1,671
営業外収益		
受取利息及び配当金	68	55
為替差益	—	285
受取賃貸料	37	37
その他	18	52
営業外収益合計	124	430
営業外費用		
支払利息	150	73
為替差損	52	—
その他	57	39
営業外費用合計	260	113
経常利益	1,699	1,989
特別利益		
固定資産売却益	18	1
新株予約権戻入益	6	7
出資金売却益	—	166
特別利益合計	24	175
特別損失		
減損損失	—	39
その他	—	7
特別損失合計	—	46
税金等調整前四半期純利益	1,723	2,118
法人税等	501	887
四半期純利益	1,222	1,231
非支配株主に帰属する四半期純利益	4	4
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,218	1,226

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)
四半期純利益	1,222	1,231
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	137	83
繰延ヘッジ損益	△42	582
為替換算調整勘定	△133	1,552
退職給付に係る調整額	18	△4
その他の包括利益合計	△19	2,214
四半期包括利益	1,203	3,445
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,198	3,440
非支配株主に係る四半期包括利益	4	5

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,723	2,118
減価償却費	2,017	1,686
減損損失	—	39
のれん償却額	359	353
新株予約権戻入益	△6	△7
出資金売却益	—	△166
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△5	△36
引当金の増減額 (△は減少)	△177	△220
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△56	△33
受取利息及び受取配当金	△68	△55
支払利息	150	73
為替差損益 (△は益)	37	△4
売上債権の増減額 (△は増加)	△688	1,494
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△2,559	△2,250
前払費用の増減額 (△は増加)	△605	△1,263
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,486	2,766
未払金の増減額 (△は減少)	△957	330
未払費用の増減額 (△は減少)	△2,441	△2,476
その他	758	1,032
小計	△1,031	3,381
利息及び配当金の受取額	68	55
利息の支払額	△144	△84
法人税等の支払額	△1,714	△1,765
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,821	1,586
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△736	△995
無形固定資産の取得による支出	△295	△383
出資金の売却による収入	—	166
その他	△5	△31
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,037	△1,243
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	0	358
長期借入金の返済による支出	△12,987	△765
配当金の支払額	△429	△602
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△820	△782
自己株式の処分による収入	554	526
セール・アンド・リースバックによる収入	11	500
その他	△2	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△13,673	△766
現金及び現金同等物に係る換算差額	16	227
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△17,515	△196
現金及び現金同等物の期首残高	58,530	46,206
現金及び現金同等物の四半期末残高	41,015	46,009

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	日本	アメリカズ	欧州	オセアニア	アジア	合計
売上高						
外部顧客への売上高	29,369	4,813	1,192	463	2,649	38,487
セグメント間の内部売上高又は振替高	3,115	28	1	—	10,933	14,079
計	32,485	4,841	1,193	463	13,582	52,567
セグメント利益又は損失(△)	2,102	△12	△116	△5	222	2,189

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,189
セグメント間取引消去	254
全社費用(注)	△608
四半期連結損益計算書の営業利益	1,835

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 地域に関する情報

(単位:百万円)

	日本	北米		その他	合計
			内 アメリカ		
売上高	24,103	6,495	6,087	7,889	38,487

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しています。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	日本	アメリカズ	欧州	オセアニア	アジア	合計
売上高						
外部顧客への売上高	29,427	3,866	1,062	397	3,561	38,315
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,120	31	8	—	9,211	11,372
計	31,548	3,897	1,070	397	12,772	49,687
セグメント利益又は損失(△)	2,693	△83	△294	△35	136	2,416

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,416
セグメント間取引消去	△11
全社費用(注)	△733
四半期連結損益計算書の営業利益	1,671

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 地域に関する情報

(単位:百万円)

	日本	北米		その他	合計
			内 アメリカ		
売上高	24,400	6,394	5,961	7,521	38,315

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しています。